

# 株式会社ささら

※2016年3月現在

代表者名	大野 博司	資本金	12 百万円
設立年	2006 年 1 月 1 日	売上高	242 百万円 (2014 年 12 月期)
事業内容	生産 (茶)	経営規模	畑 16ha、施設 9,561㎡、 加工場 3,900㎡
従事者数	8 人 (うち女性 3 人。女性内訳：管理職 3 人)		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んでいる制度] 休暇 (育児・介護) [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (休憩室・屋内トイレの設置)、重労働等の業務改善、 技術・知識の習得支援		



## 経営概況

(株) ささらは三重県鈴鹿市で「経営の発展と家族生活の充実の両立」を理念に掲げ、茶の生産、加工、直売を行っている。2006年、3戸の3夫婦によって農業法人として設立された。2008年3月28日には3家族それぞれが家族経営協定を締結。同時に3家族間の経営計画も策定した。また地域のNPO法人との連携により「コラボワーク」制度を導入し、乳幼児を育てる母親たちも農繁期に作業を行えるようにしている。

樹園地 16ha (うち所有地 10ha、借地 6ha) と 3,900㎡の製茶工場を有し、日本有数の大き



さである製茶工場は、畑面積にして約90ha分の茶葉の加工まで、対応することができる。86戸の地域の農家と連携し、経営面積にして74ha分の茶葉を併せて加工販売しており、地域の製茶産業において基幹的な役割を担う。

近年、大野夫婦の息子と伊川夫婦の息子が加わり、大野家3名、伊川家3名、名村家2名の計8名で運営している。

## 1. 経営理念の明文化

2006年に事業を開始したが、その2年後の2008年に家族経営協定の締結に取り組むこととなった。それは県の普及センターからの働きかけや、専門家である内山智裕氏(東京農業大学教授)の「協定とは、就業時間や休日を定めるだけでなく、それぞれの家族がこうしていきたいという希望をかなえるもの」という説明に共感したからである。個々の「農業者」「家庭人」「市民」としての役割ややりがいを丁寧に話し合うことで3家族それぞれの家族経営協定の締結と会社の長期計画である「ささら21世紀計画」を策定した。

計画には、①参画する全ての者の能力発揮によ

る農業経営の発展、②ワークライフバランスの実現による個々の人生の充実、③地域に貢献できる農業経営の実現、を目標とすることが記され、経営理念の基礎となっている。

計画を策定した結果、3家族の共通の目標を確認することができ、また意識が高まったため経営の点検や見直しができるようになった。これにより、女性たちの計画とアイデアを経営に反映できる仕組みが整い、消費者目線の商品の開発やサービスの提供、働きやすい職場づくりに加え、個人の意欲の増進にもつながっている。

## 2. 地域の子育て女性への貢献

ささらはNPO法人マザーズライフサポーターと連携し、「コラボワーク」を導入している。対象は就学前の乳幼児を育てる母親であり、6～8人でグループを組んで「仕事班」「託児班」「待機班」に分かれ、「午前1.5時間」「午後1.5時間」「全日3時間」から選り勤務シフトを作成。勤務中は近隣の公民館で託児班やNPOから派遣された保育士に子供を預け、体調不良やケガなどの事態にもすぐに駆けつけられる環境を整えている。作業は二人一組で茶畑に遮光幕をかぶせ、2週間後にそれを巻き取りトラックに乗せるというものである。慣れない作業に戸惑いながらも、自然の中でリフレッシュできると喜んでもらっている。

## 3. キャリア形成への取り組み

地域農業者からなる、地域農業の振興や消費者交流を目的とした「椿の農業と地域を考える会」に参加し、自社農場にてお茶摘み体験や工場見学、お茶づくり体験、昼食会といった体験ツアーを開催している。また三重県農村女性アドバイザーの認定を受け、農村女性ネットワーク「Agriロマン鈴鹿」の活動にも参画し、ネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。

りに積極的に取り組んでいる。

加えて、日本茶アドバイザーの資格などの経営に役立つ資格取得やスキルアップ研修へ積極的に参加し、販促活動や経営改善に活かしている。

## 4. 女性の活躍する環境づくり

ささらの従業員は、チャレンジ精神をもって創造的に業務に取り組んでいる。女性が商品開発や販売促進部門の担当をすることで、消費者目線の商品開発が進み、直売所のレイアウトがより洗練された。イベント出展等の消費者交流事業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。家族経営協定の策定後は労働形態も見直され、夜通しでの作業はなくなり、農閑期には趣味の陶芸やスポーツ、ガーデニングなどの生活面での余裕も生まれたという。

さらに「コラボワーク」制度を発展させ、これからの地域の子育て中の若い女性にとっても働きやすい就業システムの構築に取り組んでいる。

### 審査委員の声

茶の需要が伸び悩む中、伊勢茶の産地鈴鹿市で、3戸の茶農家で(株)ささらを2006年設立。2年後の3月に3家族それぞれの家族経営協定と、「ささら21世紀計画」を同時に締結した点が、先進事例として注目される。法人化したから家族経営協定は不要ではなく、「農業者」「家庭人」「市民」としての役割ややりがいを丁寧に話し合い、普及センターの指導もあって会社の経営、就業規則ではカバーできない「家庭の役割分担」や「趣味・余暇時間」の確保を協定で定めている。急須で大野久美子さんがいれてくださったお茶をいただきながらゆっくりと過ごした時間は心が落ち着いた。貴重な伊勢茶の伝統を持続させて、次世代につないでほしい。